

第一百一條 政府ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其營業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第一百二條 政府ハ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其營業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ保險會社カ政府ノ命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其營業ノ停止又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由アリト認ムルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第一百三條 保險會社ハ總會終結ノ後遲滯ナク商法第九十條ニ掲ケタル書類及ヒ總會ノ決議録ヲ政府ニ差出スコトヲ要ス

第一百四條 保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ保險會社ノ定時總會終結ノ後營業報告、書財産目錄若クハ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但保險會社ハ定款又ハ保險契約ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手數料ヲ拂ハシムルコトヲ妨ケス

第一百五條 保險會社ハ他ノ事業ヲ目的トスル會社ト合併ヲ爲スコトヲ得ス生命保險ヲ營業トスル會社ト損害保險ヲ營業トスル保險トハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第一百六條 保險會社カ合併ヲ爲スニハ特ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り合併契約書ト共ニ之ヲ政府ニ差出シ其認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百七條 保險會社カ任意ノ解散ヲ爲スニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百八條 生命保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社財産ニ對シ他ノ債權者ニ先チテ其權利ヲ行フコトヲ得

第一百九條 生命保險ヲ營業トスル會社カ解散シタル場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ割合ニ應シテ其權利ヲ行フコトヲ得但會社ノ解散前ニ保險金額ヲ受取ルヘカリシ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ損害保險ヲ營業トスル會社ニ之ヲ準用ス

第一百十條 第九十七條及前十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

商法施行前ニ設立シタル會社ニシテ第九十七條ニ禁止シタル兼業ヲ爲スモノハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其兼業ヲ廢止スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其保險營業ヲ禁止スルコトヲ得

第一百一條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條、第一百五條乃至第百



九條及ヒ前條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第百十二條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滯ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ政府ニ差出スコトヲ要ス

第百十三條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ第百四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第百十四條 第九十七條第九十九條乃至第百二條及ヒ第百十條第二項ノ規定ハ商法施行前ヨリ保險事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

第百十五條 外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第百十六條 保險會社ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第百十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス

第百十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有

價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第百十九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十

條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニ亦之ヲ適用ス

第百二十一條 商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖組合ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十二條 湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム

第百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行前ニ在タル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

改正日本商法



商法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算シテ  
六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

**第二百二十四條** 明治十九年法律第二號公證人規則第二十八條ノ規定ハ公  
證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス

**第二百二十五條** 外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依  
ル前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ依  
定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依レハ要件ヲ具備セサル  
トキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本人カ外國  
ニ於テ日本人ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件  
ヲ具備スルトキ亦同シ

**第二百二十六條** 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス  
行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

**第二百二十七條** 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シ  
タル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

**商法第五百五十三條**ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其發行前ニ選任シタル  
船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

**第二百二十八條** 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶

ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

**第二百二十九條** 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十  
條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタ  
ル船長モ亦之ヲ適用ス

**第三百十條** 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル  
書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム

**第三百十一條** 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ  
爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲ス  
コトヲ得

**第三百十二條** 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六個月間分明ナラサルト  
キハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ  
其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス

**第三百十三條** 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三  
日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ法  
商第五百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

**第三百十四條** 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シ  
タル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス



**第三百三十五條** 第三十三條ノ規定ハ商法第五百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

**第三百三十六條** 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

**第三百三十七條** 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

**第三百三十八條** 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁分所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判所ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

**第三百三十九條** 破産宣告ノ申立ヲ爲ス債權者ハ裁判所ノ定ムル所ニ從ヒ破産手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス  
債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破産宣告ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

**第四百十條** 本人カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破産手續ニ必要ナル費用ハ假ニ國庫コリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却セサルトキ亦同シ

**第四百十一條** 裁判所ハ破産事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

**第四百十二條** 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

**第五條** 財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ其住地ヲ離レタルトキ  
**第四百十三條** 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ヲ左ノ如ク改ム

破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社員、株式會社ノ取締役若クハ監査役、清算人、破産管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトヲ得ス

**第四百十四條** 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十五條第三項ハ



之ヲ削除ス

第四百十五條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十九條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半數以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地ヲ管轄スル裁判所ハ一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得

附則

第四百十六條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四百十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、

第二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其效力ヲ存ス

### 商法施行法終

## 破産法

(明治二十三年法律第三十二號)  
商法 第三編

### 第二編 破産

#### 第一章 破産宣告

第九百七十八條

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辨論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(本條ハ新商法施行法ニヨリ改正)

第九百七十九條

支拂停止ハ其停止ヲ爲シタル本人ヨリ又會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役又ハ清算人ヨリ支拂停止ノ日ヲ算入シテ五日内ニ其營業所又ハ住所ノ裁判所ニ書面ヲ以テ又ハ口述ヲ調書ニ筆記セシメテ届出ツ可シ此届出ニハ支拂停止ノ事由ヲ明示シ及ヒ貸借對照表並ニ商業帳簿ヲ添フルコトヲ要ス

貸借對照表

左ノ諸件ヲ包含ス

第一 總テ動産、不動産其他債權ノ列舉及ヒ價額

破産法



第二 總テノ債務

第三 利益及損失ノ概要

第四 毎月ノ一身上ノ費用及ヒ家事費用ノ支出額

第九百八十條 破産決定書ニハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 支拂停止ノ日時但此日時ハ後日裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二 破産主任官及ヒ一人又ハ二人以上ノ破産管財人ノ選定

第三 破産財團ノ保全ニ必要ナル處分ニ付テノ命令

第四 破産者ノ債務者又ハ財團ニ屬スル物ノ占有者ニ對スル拂渡

差押ノ命令

第五 破産者ノ總債權者ニ對シ其請求權ヲ短クトモ三箇月長クトモ六算月ノ期間ニ破産主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告

第六 調査會ノ期日及ヒ債權者集會ノ期日ノ指定

第七 破産宣告ノ日時

破産決定書ハ之ヲ檢事ニ送致ス可シ

第九百八十一條 破産宣告ハ即時ニ裁判所ノ揭示場并ニ破産者ノ營業場ニ貼附シ及ヒ其他ノ新聞紙ニ載セテ之ヲ公告スルヲ要ス其宣告

ハ假執行ヲ爲スコトヲ得

第九百八十二條 破産者ノ財産ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ前條ノ手續ヲ除ク外其後ノ手續ヲ停止ス其手續ノ停止ハ之

ヲ公告スルコトヲ要ス

然レトモ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル破産者ノ財産アルコトヲ證明

スルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ即時手續ヲ再施ス

破産手續ノ停止ハ其繼續スル間ハ第千四十九條ニ掲ケタル効力ヲ有ス

第九百八十三條 破産主任官ハ總テノ破産手續ヲ指揮シ及ヒ監督スル

コトヲ要ス其命令ハ假執行ヲ爲スコトヲ得然レトモ此命令ニ對シテ

ハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百八十四條 檢事ハ職權ヲ以テ破産者ノ罰セラレ可キ所爲ノ有無

ヲ搜查シ且此カ爲メ取引帳簿其他ノ書類ノ展閱ヲ求ムルコトヲ得

第九百八十五條 破産宣告ニ依リ破産者ハ破産手續ノ繼續中自己ノ財

産ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失フ

破産宣告ノ日ヨリ以後ハ破産者ノ爲シタル支拂其ノ他總テノ權利行

爲及ヒ破産者ニ爲シタル支拂ハ當然無効トス

破産法

三



破産者ノ動産、不動産ニ關スル訴及ヒ執行ハ特ニ管財人ヨリ又ハ管財人ニ對シテ之ヲ起シ又ハ繼續スルコトヲ得  
第九百八十六條 破産者ノ營業ノ用ニ供スル動産ニ對シテ不動産貸賃  
爲メ爲メスル強制執行ハ三十日間之ヲ猶豫ス但貸賃人ガ貸賃物ヲ取  
戻ス權利ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

第九百八十七條 各箇債權者ハ優先權ノ存スルニ非サレハ破産處分中  
破産者ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス  
第九百八十八條 辨濟期限ノ未タ至ラサル破産者ノ債務ハ破産宣告ニ  
依リテ辨濟期限ニ至リタルモノトス

爲替手形ヲ引受人又ハ引受ナキ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ振出  
人ガ破産宣告ヲ受ケタレキハ其償還義務ニ付テモ前項ノ規定ヲ適用ス  
第九百八十九條 財團ニ對シテハ破産宣告ノ日ヨリ利息ヲ生スルコト  
禁止ム但抵當權質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル債權ハ其擔  
保物ノ賣拂代金ニ滿ツルマテ限トシテ利息ヲ生スルコトヲ得  
第九百九十條 支拂停止後又ハ支拂停止前三十日內ニ破産者カ爲シタ  
ル贈與其他ノ無償行爲又ハ之ト同視ス可キ有償行爲期限ニ至ラサル  
債務ノ支拂期限ニ至リタル債務ノ代物辨濟及ヒ從來負擔シタル債務

ノ爲メ新ニ供スル擔保ハ財團ニ對シテハ當然無効トス  
第九百九十一條 前條ニ掲ケタルモノノ外債務者カ支拂停止後破産宣  
告前ニ財團ノ損害ニ於テ爲シタル總テノ支拂及ヒ權利行爲ハ相手方  
カ支拂停止ヲ知リタルトキニ限り財團ノ計算ノ爲メ之ニ對シテ異議  
ヲ述フルコトヲ得  
然レトモ手形ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ爲替手形ヲ振出シ又ハ振出  
サシムル際支拂停止ヲ知リタル振出人又ハ振出委託人ヨリ又約束手  
形ニ在テハ裏書讓渡ノ際支拂停止ヲ知リタル第一ノ裏書讓渡人ヨリ  
其支拂金額ヲ償還スルコトヲ要ス

第九百九十二條 有効ニ取得シタル抵當權其他合式ノ登記ニ因リテ法  
律上効力ヲ有ス可キ權利ハ支拂停止後ニ在テハ其取得ノ時ヨリ十五  
日ヲ過キサルトキニ限り破産宣告ノ日マテ登記ヲ爲スコトヲ得

第九百九十三條 破産宣告ノ時ニ破産者及ヒ其相手方ノ未タ履行セズ  
又ハ履行ヲ終ラサル雙務契約ハ孰レノ方ヨリモ無賠償ニテ其解約ヲ  
申入ルルコトヲ得  
貸賃借契約又ハ雇傭契約ニ在テハ解約申入ノ期間ニ付キ協議調ハサ  
ズトキハ法律上又ハ慣習上ハ豫告期間ヲ遵守ス可シ



第九百九十四條 契約者ノ一方ノ義務不履行ノ爲メ他ノ一方ニ於テ契約ヲ解除スル權利又ハ既ニ給付シタル物ヲ取戻ス權利ハ財團ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第九百九十五條 相殺ノ權利アル債權者ハ期限ニ至ラサル債權又ハ金額未定ノ債權ト雖モ財團ニ對シテ其効用ヲ致サシムルコトヲ得債權カ支拂停止後ニ生シ又ハ取得シタルモノナルトキハ支拂停止ヲ知リタル場合ニ限り相殺ヲ許サス

第九百九十六條 債權者カ債權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタル權利行爲ハ相手方カ情ヲ知リタルトキニ限り其日附ノ如何ヲ問ハス之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第三章 別除權

第九百九十七條 債務者ノ動産又ハ不動産ニ對シテ抵當權、質權其他ノ優先權ヲ有スル債權者ハ財團ヨリ先ツ辨償ヲ受ケタルニ非サレハ其擔保物ノ賣拂代金ヨリハ費用利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受クル爲メ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得若シ其實拂代金ノ剩餘アルトキハ買主之ヲ財團ニ拂込ム可シ

第九百九十八條 優先權及ヒ其順序ハ民法及ヒ特別ノ法律ニ依リテ定

マル

第九百九十九條 優先權ヲ有スル者其擔保物ノ賣拂代金ヨリ完全ナル辨償ヲ受ケザルトキハ其未済ノ債權ハ他ノ債權者ト平等ナル割合ヲ以テ財團ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第一千條 債務者カ支拂停止後ニ遺産ヲ取得シタルトキハ遺産債權者及ヒ受遺者ハ遺産トシテ仍ホ現存スル遺産物ヨリ又ハ未タ債務者ニ支拂ハレサル遺産ニ屬スル金錢ヨリ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第一千一條 破産者ノ財産ニシテ民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ爲メ差押フルコトヲ得サルモノハ之ヲ財團ニ加フルコトヲ得ス但債權者ニ優先權ヲ屬スルモノニ付テハ第九百九十七條ノ規定ニ從フ

第四章 保全處分

第一千二條 裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ノ封印ヲ命ス會社ニ在テハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ財産ニ對シテ右ノ處分ヲ行フ

第一千三條 破産者カ逃走シ若クハ其財産ヲ隱匿スルノ虞アリト認ムル外キハ裁判所ハ其監守ヲ命スルコトヲ得  
會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ對シテ右ノ處分ヲ

破産法



行フニ... 破産者ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サルハ其住地ヲ離ルルヲ得ズ  
又裁判所ハ何時ニテモ債務者ノ引致ヲ命スルコトヲ得

**第一千四條** 管財人カ破産者ノ財産目録ニ載セ且之ヲ占有シタルトキ又  
ハ監守ノ事由最早存セサルトキハ裁判所ハ其決定ヲ以テ破産者ヲ放  
釋ス可シ

然レトモ破産者ヲシテ裁判所又ハ管財人ノ呼出ニ應シ何時ニテモ出  
頭ス可キ爲メノ擔保ヲ供スル義務ヲ負ハシムルコトヲ得  
取上ケタル擔保ハ之ヲ財團ニ歸セシム

**第一千五條** 管財人カ債務者ノ財産ヲ財産目録ニ載セ且之ヲ占有シタル  
トキハ直チニ其捺印ヲ解ク可シ

**第一千一條**ニ依リ財團ニ加フルコトヲ得サル物及ヒ財團ノ爲メニスル  
即時ノ換價又ハ繼續利用ヲ封印ノ爲メ妨ケラル、物ニハ封印ヲ爲サ  
サルコトヲ得此等ノ物ハ直チニ財産目録ニ載セ管財人之ヲ占有スル  
コトヲ要ス

債務者ノ商業帳簿ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ且其帳簿ノ現状ハ破産  
主任官之ヲ認證ス

特ニ高價ナル物ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ又ハ一時之ヲ裁判所ニ引  
取ルコトヲ得

**第一千六條** 破産者ニ對シテ債務ヲ負ヒ又ハ財團ニ屬スル者ヲ占有スル  
者ハ其支拂又ハ交付ヲ管財人ニノミ爲ス可キコトヲ拂渡差押ノ命令  
ヲ以テ催告セラレタルモノトス

別除權ヲ行ハント欲スル者ハ其旨ヲ管財人ニ申出ツ可シ若シ管財人  
ヨリ其物ノ評價ヲ爲サンコトヲ求ムルトキハ之ヲ承諾スルコトヲ要ス  
債務者ニ宛テタル電信書狀其他ノ送達物ハ之ヲ管財人ニ交付ス可シ  
其管財人ハ開封ノ權ヲ有ス然レトモ其旨趣カ財團ニ關係ナキトキハ  
管財人ヨリ債務者ニ引渡スコトヲ要ス

破産裁判所ハ此カ爲メ郵便局、電信局其他ノ運送取扱所ニ必要ナル  
命令ヲ發ス可シ

**第一千七條** 破産主任官ハ破産者及ヒ其家族ニ財團ヨリ給養ノ扶助料ヲ  
與フルコトヲ得

第五章 財團ノ管理及ヒ換價

**第一千八條** 各裁判所管轄區ニハ職務上義務ヲ負フ可キ破産管財人ノ名簿  
ヲ備置キ破産裁判所各箇ノ場合ニ於テ其名簿中ヨリ管財人ヲ選定ス

破産法



第十  
第九條 管財人ノ勤勞ニ對スル報酬ハ財團ヨリ第一ニ之ヲ支拂ヒ其額ハ破産裁判所之ヲ定ム

第十條 裁判所ハ何時ニテモ管財人ヲ易ヘ又ハ他ノ管財人ヨリ加フルコトヲ得

第十一條 管財人ハ其行爲ニ付テハ代理人ト同一ノ責任ヲ負フ若シ管財人二人以上アルトキハ共同ニ非サレハ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但破産主任官カ或ル行爲ニ付キ各箇ニ特別ノ委任ヲ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 管財人ハ破産宣告後即時ニ財團ヲ占有シ且其管理及ヒ換價ニ着手スルコトヲ要ス

管財人ハ其執務ノ爲メ破産者ノ補助ヲ求ムルコトヲ得破産主任官ハ此カ爲メ破産者ニ報酬ヲ與フルコトヲ得

第十三條 管財人ハ破産主任官ノ監督ヲ受ケ且其指揮ニ從フ義務アリ若シ管財人ノ行爲又ハ決斷ニ對シテ異議ヲ述ブル者アルトキハ破産主任官命令ヲ以テ之ヲ決ス此命令ニ對シテハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十四條 財産目錄ハ裁判所職員又ハ其他警察官吏ノ立會ヲ以テ管

財人之ヲ作り若シ必要アルトキハ破産者ヲモ立會ハシム

破産者ニ屬スル總テノ財産ハ財團ニ組入ル可カラサルモノト雖モ其價額ヲ明示シテ之ヲ財産目錄ニ記入スルコトヲ要ス必要ナル場合ニ在テハ其價額ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム

財産目錄及ヒ之ニ關スル調書ノ認書アル謄本ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ

第十五條 檢事ハ其見込ニ因リ職權ヲ以テ財産目錄ノ作成ニ立會フコトヲ得

第十六條 破産者ニ屬セザル財産ヲ財團ヨリ取戻スコトニ係ル争訟ハ破産裁判所之ヲ裁判シ不動産ニ付テハ其所在地ヲ管轄スル裁判所之ヲ裁判ス

第十七條 管財人ハ破産主任官ノ定メタル三十日以内ノ期間ニ破産者ヨリ差出シタル届書及ヒ貸借對照表ヲ調査シ若シ破産者ヨリ之ヲ差出ササリシトキハ自ラ貸借對照表ヲ作り且其報告書ニ貸借對照表ヲ添テ破産主任官ニ提出ス可シ

報告書及ヒ貸借對照表ノ認書アル謄本ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ報告書及ヒ貸借對照表ハ之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス

第十八條 貸方ノ借方ニ超ユルコト判然ナルトキ又ハ協諧契約ノ豫



期セララル間ハ裁判所ハ破産主任官ニ申立ニ因リ且管財人ノ意見ヲ  
聽キタル後管財人ヲシテ破産者ノ營業ヲ續行セシムル決定ヲ爲スコ  
トヲ得管財人營業ヲ續行スル場合ニ在テ財團ニ屬スル物ヲ通常ノ營  
業外ニテ賣却セントスルニハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ且豫メ破産者  
ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第一千零八條 不動産ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ競賣スルコトヲ  
要ス

動産ハ競賣スルヲ通例トスト雖モ破産主任官ノ認可ヲ受クルトキハ  
相對ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得  
競賣ノ手續ハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ依ル

第一千九條 管財人ハ財團ニ屬スル破産者ノ貸方ヲ取立テ及ヒ破産者  
ノ權利ヲ債務者其ハ他人ニ對シテ主張シ且保全スルコトヲ要ス  
管財人ハ左ニ掲クル行爲ニ付テハ破産者ノ意見ヲ聽キ且破産主任官  
ノ認可ヲ受ク可シ

- 第一 訴訟ヲ爲スコト
- 第二 和解契約又ハ仲裁契約ヲ取結フコト
- 第三 質物ヲ受戻スコト

第四 債權ヲ轉付スルコト

第五 相續又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第六 消費借ヲ爲スコト

第七 不動産ヲ買入ルルコト

第八 權利ヲ拋棄スルコト

第九 總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト

第二十條 財團ニ收入スル金錢ハ破産主任官ノ定ム可キ常用支出額  
ノ外遲延ナク之ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ要ス其金錢ハ破産主任官  
ノ支拂命令ニ依ルニ非サレハ支出スルコトヲ得ス

第二十一條 管財人ハ其管財中破産者ニ罰セラル可キ行爲アルヲ知  
リタルトキハ之ヲ破産主任官ニ届出ツル義務アリ破産主任官其届出  
ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢事ニ通知ス

第二十二條 破産主任官ハ破産ノ原由、事情、貸方借方竝ニ其對照表  
其他管理及ヒ破産手續ニ關スル事項ニ付キ破産者、其商業使用人雇  
人其他ノ人ヲ何時ニテモ訊問スルコトヲ得

### 第六章 債權者

第一節 債權ノ届出及ヒ確定

破産法



**第一千二十三條** 破産者ノ總債權者ハ破産決定ノ公告ニ因リ債權届出ノ期間ニ其債權ヲ破産主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告ヲ受ケタルモノトス其届出ニハ各債權ノ合法ノ原因及ヒ請求金額若シ優先權アルモノハ其權利ヲ明記シ且證據書類又ハ其謄本ヲ添フ可シ  
 他所ニ住スル債權者ハ裁判所所在地ニ代人ヲ置ク可シ  
 債權及ヒ代人任置ノ届出ハ書面ヲ以テ又ハ調書ニ筆記セシメ之ヲ爲スコトヲ得書面ヲ以テスル場合ニ在テハ二通ヲ差出スコトヲ要ス  
 所在ノ知レタル債權者ハ右ノ外特ニ裁判所ヨリ書面ヲ以テ其債權ノ届出催告ヲ受ク然レトモ書面カ債權者ニ達セサルモ此カ爲メ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

**第一千二十四條** 届出ハ之ヲ受取リタルトキ直チニ順次番號ヲ付シテ二箇ノ表ニ記載ス可シ其一ニハ優先權アル債權ヲ掲ケ他ノ一ニハ通常ノ債權ヲ掲ク此債權表ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備フ  
 管財人ハ其使用ノ爲メ届出書及ヒ債權表ノ謄本ヲ受領ス

**第一千二十五條** 調査會ハ管財人及ヒ成ル可ク破産者ノ面前ニ於テ破産主任官之ヲ開キ且其調書ヲ作ル可シ債權者ハ自身又ハ代理人ヲ以テ此會ニ参加スルコトヲ得

破産主任官ハ債權者ニ取引帳簿若クハ其抜書ノ提出ヲ命スルコトヲ得調査ノ結果ハ債權表及ヒ提出シタル債務證書ニ附記シ且各債權者又ハ其代理人ニ告知スルコトヲ要ス  
 調査會ハ届出期間ノ滿了後十日乃至十五日間ニ之ヲ開クヲ通例トス  
 届出期間ノ滿了後二届出テタル債權ハ調査會ニ於テ之ヲ調査スルコトヲ得然レトモ其調査ヲ爲スコトニ付キ異議ノ申立アリタルトキ又ハ調査會ノ総リタル後債權ヲ届出テタルトキハ其債權者ノ費用ヲ以テ新ナル調査會ヲ開ク

**第一千二十六條** 債權ノ確定ハ承諾又ハ裁判所ノ判決ヲ以テ之ヲ爲ス  
 調査會ニ於テ管財人ヨリモ又債權ノ確定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケタル債權者ヨリモ異議ヲ申立テサルトキハ債權ハ承認ヲ得タルモノトス  
 管財人ノ債權ニ係ル承認又ハ異議ハ破産主任官其管財人ニ代リテ之ヲ爲ス

**第一千二十七條** 異議ヲ受ケタル各債權ハ若シ其債權者之ヲ取消ササルトキハ破産裁判所公廷ニ於テ破産主任官ノ演述ヲ聽キ成ル可ク合併シテ其判決ヲ爲ス可シ其辨論及ヒ判決ハ原告カ被告ノ出頭セサルトキト雖モ之ヲ爲ス但此判決ニ對シテテ故障ヲ申立タルコトヲ得ス



第一千二十八條 判決ハ成ル可ク債權者集會前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ニ對シテ控訴ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ異議ヲ受ケタル債權者ノ右集會ニ加ハルコトヲ許ス可キヤ否ヤ又幾許ノ金額ニ付キ加ハルコトヲ許ス可キヤ否ヤ決定ス債權者ノ優先權ノミカ異議ヲ受ケタルトキハ其債權者ハ通常ノ債權者トシテ右集會ニ加ハルコトヲ得

第一千二十九條 債權ヲ正當時期ニ届出テヌ又ハ債權ノ確定セザル債權者ハ以後ノ確定ニ因リテ爲ス可キ財團ノ配當ニノミ加ハルコトヲ得然レトモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權及ヒ届出并ニ調査ノ爲メ別段ノ期間ヲ定メラレタル在外國債權者ノ債權ニ付テハ以前ノ配當ニ於テ其債權ニ歸スル割前ヲ留存ス

第二節 特種ノ債權者

第一千三十條 主タル債務者ノ破産ニ於テ届出テタル債權ハ協諾契約ノ場合ト雖モ保證人其他ノ共同義務者ニ對シ其全額ニ付キ之ヲ主張スルコトヲ得又保證人又ハ共同義務者ハ主タル債務者ノ破産ニ於テ其償還請求ヲ届出ツルコトヲ得然レトモ主タル債務者ノ爲メニ協諾契約ノ效果ニ從フ

第一千三十一條 二人以上ノ共同義務者ハ破産シタルトキハ其各義務者ハ破産ニ於テ債權ノ全額ヲ届出ツルコトヲ得

各自ノ破産財團ノ間ニ於ケル償還請求權ハ之ヲ主張スルコトヲ得然レトモ債權者カ受取ル割前ノ額カ主タルモノ及ヒ從タルモノ合セタル債權ノ總額ヲ超過スルトキハ其超過額ハ共同義務者中他ノ共同義務者ニ對シテ償還請求權ヲ有スル者ハ財團ニ歸ス

第一千三十二條 左ニ掲クル債權ハ届出及ヒ確定ニ從フコトヲ要セス

- 第一 裁判費用、管理費用其他破産手續上ノ費用
  - 第二 公ノ手數料及ヒ諸稅
  - 第三 管財人カ財團ノ爲メニ負擔シタル義務ヨリ生スル債權
- 右債權ハ破産主任官ノ指圖ニ從ヒ通常ノ方法ヲ以テ財團ノ現額ヨリ之ヲ支拂フ

第一千三十三條 破産手續ニ加ハリタルニ因リテ債權者ニ生シタル費用ハ財團ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一千三十四條 婦ハ其夫ノ財團ニ對シテハ法律、明約又ハ疑ナキ慣例ニ依リ婦ノ特有ニ歸スル所有權ヨリ生スル債權ノミヲ主張スルコトヲ得(二十六年二月法律第九號ニテ削除)



**第一千三十五條** 債權者集會ハ破産主任官之ヲ招集シ及ヒ之ヲ指揮ス其  
 招集ハ會議ノ事項ヲ明示スル公告ヲ以テ之ヲ爲シ  
 其集會ハ管財人ノ債權ノ確定シタル債權者及ヒ第百二十八條ニ依リ  
 テ參加スルコトヲ得ヘキ債權者ヨリ成立ス然レトモ優先權ヲ確定シ  
 タル債權者ハ優先權ヲ拋棄シタル限度又ハ優先權ヲ行フニ當リ不足  
 アル可シト推定セラルル限度ニ於テノミ參加ス債權者ハ代理人ヲ差  
 出スコトヲ得

破産者ハ之ヲ集會ニ呼出スコトヲ得

**第一千三十六條** 決議ハ出席シタル債權者ノ過半数ヲ以テ爲スヲ通例トス  
 其過半数ハ出席員ノ有スル債權額ノ半ヨリ多キ額ニ當ルコトヲ要ス

**第一千三十七條** 集會ニ於テハ破産主任官ハ破産手續ノ從來ノ成行ニ付  
 テノ報告ヲ爲シ管財人ハ管財ノ處理其結果及ヒ財團ノ現況ニ付テ  
 ノ報告ヲ爲ス  
 集會ハ右ノ報告ニ付テ決議ヲ爲シ若シ破産主任官又ハ管財人ノ意見  
 アリタルトキハ其意見及ヒ債權者ノ爲シタル申立又ハ破産主任官ノ  
 認許ヲ受ケテ破産者ノ爲シタル申立ニ付テ決議ヲ爲スコシ此等ノ決

議ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七章 協諧契約

**第一千三十八條** 法律上ノ義務ヲ履行シタル破産者ニシテ有罪破産ノ判  
 決ヲ受ケス又其審問中ニ在ラサル者ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ第一  
 ノ集會ニ於テ債權者ニ協諧契約ヲ提供スルコトヲ得又十分ノ理由ヲ  
 ルトキハ以後ノ集會ニ於テモ之ヲ提供スルコトヲ得然レトモ其提供  
 ハ一回ニ限ル

**第一千三十九條** 協諧契約ヲ承諾スルニハ出席シタル債權者ノ過半数ノ  
 承諾ヲ要ス其過半数ハ決議權アル總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ルコ  
 トヲ要ス

管財人及ヒ決議權ヲ有スル債權者又ハ後ニ至リ債權ヲ確定シタル債  
 權者ハ協諧契約ニ對シテ十日内ニ理由ヲ附シタル異議ヲ裁判所ニ申  
 立ツルコトヲ得

**第一千四十條** 債權者ノ承諾シタル協諧契約ハ裁判所ノ認可ヲ得テ始メ



法律上有効トス其認可又ハ棄却ニ付テノ決定ハ破産主任官ノ演述ヲ聽キ前條ノ期間滿了後直チニ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ債務者及ヒ異議申立ノ權利アル者ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得

第十四十一條

協諧契約ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ棄却ス可シ

第一 第一千三十八條及ヒ第一千三十九條ノ規定ヲ踐行セサルトキ

第二 協諧契約ニ依リ或ル債權者カ其承諾ナクシテ偏頗ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被フルトキ

第三 協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキ

第四 協諧契約カ公益ニ觸ルルトキ

第十四十二條

協諧契約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキハ當然消滅シ其審問中ハ免訴又ハ無罪ノ宣告ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前條第三號ニ掲ケタル理由アルトキハ協諧契約認可ノ後雖モ尙ホ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第十四十三條

協諧契約ノ確定シタルトキハ管財人ハ直チニ其職務ヲ罷メ且其職務ニ付キ計算ヲ爲スコシ

破産者ハ協諧契約ニ別段ノ定メナキトキニ限り任意ノ管理及ヒ處分

ノ爲メ其財産ヲ取戻スコトヲ得

協諧契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四十四條

協諧契約カ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若クハ取消サルルトキ又ハ不履行ノ爲メ解除セララルトキハ破産手續ヲ再施シ直ニ財團ノ換價及配當ヲ爲シテ結局ニ至ラシム其再施シタル手續ニハ再施マテノ間ニ債權ヲ得タル者モ參加スルコトヲ得不履行ノ場合ニ在テハ協諧契約ノ爲メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免カレス

第八章

配當

第十四十五條

第一千三十二條ニ掲ケタル債權及ヒ優先權アル債權ヲ支拂ヒタル後ニ殘レル財團ハ他ノ債權者間ニ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ配當ス破産者カ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲シタル場合ニ在テハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團自ラ優先權ヲ以テ辨償ヲ受ク

第十四十六條

配當ハ普通ノ調査會ヲ終リタル後ハ配當ニ足ル可キ財團ノ生スル毎ニ管財人ノ調製シテ破産主任官ノ認可ヲ受ケタル配當案ニ依リテ之ヲ爲ス其案ハ破産主任官之ニ署名シ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ備置キ且其旨ヲ公告ス可シ

配當案ニ對スル異議ハ其公告ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ之ヲ裁判所



ニ申立ツルコトヲ得

**第千四十七條** 前條ニ掲ケタル期間ニ配當案ニ對シテ異議ヲ申立ツル者ナキトキ又ハ異議ノ落着シタルトキハ管財人ハ債權者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲ス若シ債務證書ノ提出ヲ爲スコト能ハサルトキハ破産主任官ノ許可ヲ得テ債權表ニ依リ支拂ヲ爲スコトヲ得孰レノ場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取書ヲ記スルコトヲ要ス

**第千四十八條** 財團ノ換價及ヒ配當ヲ全ク終リタルトキハ債權者集會ヲ開キ此集會ニ於テ管財人ノ結局ノ計算ヲ爲スコシ此計算ヲ濟了シタルトキハ裁判所ハ直チニ破産主任官ノ申立ニ因リテ破産手續ノ終結ヲ決定ス此決定ハ之ヲ公告ス可シ

**第千四十九條** 破産手續終結ノ後ハ辨償ヲ受ケタル債權者ハ破産手續ニ於テ確定シタルニ因リテ得タル權利名義ニ基キ其債權又債務者ニ對シテ無限ニ行フコトヲ得

**第九章 有罪破産**

**第千五十條** 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタ

ル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意志ヲ以テ貸方破産ノ全部若クハ一分ヲ藏匿シ轉匿シ若クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造、變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス

**第千五十一條**

破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲ケル行爲ヲ爲シタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處ス

第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博奕、空取引又ハ不相應ノ射利ニ因リテ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ノ債務ヲ負ヒタルトキ

第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲ爲シテ支拂資料ヲ調ヘタルトキ

第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或ル債權者ニ利ヲ與ヘ財團ニ損失ヲ加ヘタルトキ

第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ又ハ全ク記載セサルトキ(商法施行法ニ依リ改正)

第五 財産目錄若クハ貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ其住地ヲ離レタ



第一千五十二條 前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任ナル社員若クハ取締役及ヒ精算人ニモ之ヲ適用シ又第一千五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行為ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行為ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

第一千五十三條 債權者集會ニ於ケル議決ニ關シ債權者ニ賄賂ヲ爲シタルトキハ其雙方ヲ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章

破産ヨリ生スル身上ノ結果

第一千五十四條 破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ取引所ノ仲買人、會社ノ無限責任社員、商法施行前ニ設立シタル合資會社ノ擔當社員、株式會社ノ取締役若クハ監査役、精算人破産管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトヲ得ス(商法施行法ニヨリ改正)

第一千五十五條 復權ヲ得ルニハ協諧契約ノ調ヒタルト否トヲ問ハズ破産者カ元債、利息及ヒ費用ノ全額ヲ債權者總員ニ辨償シタルコト又所在ノ知レサル爲メ未タ辨償ヲ受ケサル債權者ニ全額ヲ辨償スル準備及ヒ資力アルコトヲ證明ス可シ

復權ノ申立ニハ債權者ノ受取證其他必要ナル證據物ヲ添フ可シ

然レトモ協諧契約ノ場合ニ在テハ第一項ノ證明ヲ爲スコト無クシテ取引所ニ立入ルコトヲ得

又社會ニ付キ協諧契約ノ調ヒタルトキハ無限責任社員ハ亦其證明ヲ要セスシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得(第二項ハ商法施行法ニテ削除)

第一千五十六條 復權ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ異議アル者ヲシテ二箇月ノ期間ニ異議ヲ起サシメンカ爲メ裁判所ノ揭示場ト取引所トニ其旨ヲ揭示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ヲナサシメンカ爲メ之ヲ檢事ニ通知ス可シ

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復權ノ申立ヲ許可スルト否トヲ決定ス此決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得確定シタル決定ハ之ヲ公告ス

棄却セラレタル申立ハ一箇年ノ滿了前ニハ再ヒ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一千五十七條 復權ハ債權者ノ死亡後ト雖モ之ヲ許ス

第一千五十八條 復權ハ詐欺破産ノ爲メ判決ヲ受ケタル破産者又ハ重罪輕罪ノ爲メニ剝奪公權若クハ停止公權ヲ受ケテ其期間中ニ在ル破産者ニハ之ヲ許サス

過怠破産ノ場合ニ在テハ復權ハ刑ノ滿期トナリ又ハ恩赦ヲ得タル後



ニ非サレハ之ヲ許サス

第十一章 支拂猶豫

第一千五十九條 商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ハ過失ナクシテ支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半数以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地方管轄スル裁判所ハ一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與スルコトヲ得(商法施行法ニヨリ改正)

第一千六十條 支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルコトヲ要ス

第一 支拂中止ノ事由ノ完全ナル明示

第二 貸借對照表、財産目錄及ヒ住所ノ債權額トヲ明示シタル債權者名簿

第三 債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノ、完全ナル辨償ヲ爲シ得ル方法及ヒ期間及ヒ此カ爲メ供スルコトヲ得ル擔保ノ證明

右申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ

且債權者ノ集會期日ヲ定メ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコトヲ要ス

債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集ヲ受ク

支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之ヲ許可スルコトヲ得

第一千六十一條 集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判事ノ

ト席ヲ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辨論ヲ爲ス

其申立ヲ承諾スルニハ第一千三十六條ニ掲ケタル過半数ヲ要ス其辨論及議決ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第一千六十二條 裁判所ハ承諾ヲ得タル支拂猶豫ノ認否ニ付主任判事ノ

演述ヲ聽キテ決定ヲ爲ス此決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

支拂猶豫ハ申立ニ因リテ前數條ノ手續ニ從ヒ一回ニ限り之ヲ延長スルコトヲ得然レトモ其期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第一千六十三條 債務者有効ナル支拂猶豫ヲ得タルトキハ猶豫期間中其

以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生スル債權ノ爲メ強制執行及破産宣告ヲ受クルコト無シ但猶豫契約ノ履行及ヒ事務ノ施行ニ關シテハ主任

判事ノ監督ヲ受ク

債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ右猶豫ノ爲ニ變更スルコトナシ

第一千六十四條 支拂猶豫ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所之ヲ棄却シタルト

キ又ハ後日ニ至リ債務者ノ詐欺若クハ不正ノ爲メ若クハ法律上ノ條件ノ缺クルカ爲メ之ヲ廢止シタルトキ又ハ債務者ニ於テ其猶豫契約



履行セサルトキ又ハ其猶豫期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ヨリ強制執行ヲ爲ストキハ直ニ債務者ニ對シテ破産手續ヲ開始ス此場合ニ於テハ支拂猶豫申立ノ日附ヲ以テ支拂停止ノ日ト定ム

### 破産法終

## 供託法

- 第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス
- 第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス
- 第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス
- 第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得
- 第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得
- 第六條 倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ
- 第七條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書



式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス  
第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付  
テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定  
メタル者之ヲ還付ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テ  
シコト、又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ  
取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ  
其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託  
所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタル  
コトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ  
前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル  
物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ  
之ヲ廢止ス



ノテ

第百三十三條 附則第二十三條 附則第二十三條 附則第二十三條

附則第二十三條 附則第二十三條 附則第二十三條 附則第二十三條

**競 賣 法** (法律第十五號)

**第一章 通 則**

**第一條** 競賣ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サ

スシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ

**第二條** 競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス

競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス

競買人ハ留置權者競買人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其質權者

ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ

受取ルコトヲ得ス

**第二章 動産ノ競賣**

**第三條** 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ

規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地

競賣法



ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ルコトヲ得ス債權者ノ委任ニ因リテ競買ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ現在地ニ於テ之ヲ爲ス但其地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競賣ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 競賣委任者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
- 三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件

四 競賣ノ場所及ヒ年月日時

五 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所

委任者カ競賣ノ條件ヲ定メザリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第十條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル

競賣法



競買ノ見込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ隨意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ付キ競賣ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終

競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス  
第十四條 執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印ス

- 一 競賣委任者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類數量及ヒ品質
- 三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額
- 四 競賣ノ場所及ヒ日時
- 五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由
- 六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セザリシトキハ其事由
- 七 告知シタル競賣ノ條件

八 各競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額

九 競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲サザリシトキハ其事由

十 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時

十一 競賣調書ヲ作りタル場所及ヒ年月日  
競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名、捺印セシメ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證スル書面及ヒ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス  
第十五條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セザリシ物ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第十六條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣調書ニ添附スヘシ

第十七條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得



異議ヲ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競賣ヲ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルハ此限ニ在ラス

第十九條 第三者ハ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコトヲ要ス

物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ遲滯ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競賣ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ競賣手續及ヒ保管ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第二十一條 競賣ノ委任ハ競落リ告知アルマテ之ヲ取消スコトヲ得前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第三章 不動産ノ競賣

第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス

民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス

第二十三條 申立人ハ競落期日マテハ最高價競買申込人ノ同意アル場合ニ限リ其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所

二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示

三 競賣ノ原因タル事由

四 年月日

五 裁判所

申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス



民事訴訟法第六百四十二條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス

**第二十五條** 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ

民事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用ス

**第二十六條** 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ

其管轄登記所ニ囑託スヘシ  
民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第二十七條** 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス  
左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 申立人
- 二 債務者及ヒ所有者

三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

**第二十八條** 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ

**第二十九條** 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第

五號乃至第七號第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

**第三十條** 競賣期日、其開始、競賣調書及ヒ競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ

本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス  
**第三十一條** 競賣期日ニ相當ノ競賣申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

**第三十二條** 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

競賣法



競落ノ手續競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十三條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

**第三十三條** 競落人ハ競落ヲ許ス決定力確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ

裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

**第三十四條** 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂フ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

**第三十五條** 競落ヲ爲サシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

**第四章 船舶ノ競賣**  
**第三十六條** 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス

**第三十七條** 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名、住所船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

**第三十八條** 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ヲ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

**第三十九條** 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

**第五章 增價競賣**

**第四十條** 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ增價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス

**第四十一條** 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名、捺印スヘシ



- 一 債務者ノ氏名、住所
  - 二 抵當不動産ノ表示
  - 三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
  - 四 擔保ノ表示
  - 五 第三取得者カ提供シタル金額
  - 六 請求者カ定メタル増額金額
  - 七 年月日
  - 八 裁判所
- 申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
- 民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス
- 第四十二條** 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ
- 期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出タスヘシ
- 擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 第四十三條** 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ爲スヘシ

失フ

民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得

**第四十四條** 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ

決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第二十五條第二項、第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス

**第四十五條** 第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ增價競賣ニ之ヲ準用ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 競賣請求者
- 二 債務者
- 三 第三取得者及ヒ讓渡人
- 四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

競賣法



五 不動産上ノ権利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第四十六條

競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル増價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十二條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條

競賣期日ニ請求債權者カ定メタル増價金額ニ達スル競賣ノ申込ナキトキハ請求債權者ヲ以テ競落人トス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條

増價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ因リテ其效力ヲ失フ

第四十九條

裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

附則

第五十條

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條

明治二十三年法律第九十二號増價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



# 古物商取締法

(明治二十八年三月) 法律第十三號

## 古物商取締法

第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ

手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳

第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケルハ非スシテ賣買若ハ交換

シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若シテ讓受ケタル場合ニ限リ

其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ヘシ但官衙公署ノ公賣品及質業者ヨ

第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムル

コトヲ得

古物商取締法



一 古物ノ市場、行商、露店及糶賣

二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危険ノ虞アル物品ノ賣買交換  
第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セントスルトキハ賣主、讓渡主ニ  
於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲ス  
ヘシ若シ不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコト  
ヲ得ス但住所、氏名ノ詳ナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ  
受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ  
非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受タルコトヲ得ス  
前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直  
ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スル  
コトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸ノ寫書ニ附  
記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受又ハ交換  
シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ

警察署ニ届出ヘシ  
第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、  
讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又ハ買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキ  
ハ之ヲ記載スヘシ

其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得  
第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警  
察署ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物品ハ傳染病毒汚染ノ  
物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ  
依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得  
警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其  
ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及ブ  
第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲  
シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期  
限内亦同シ



第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第十五條ニ違犯シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但沖繩縣ニ施行セズ

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

古物商取締法細則

(明治二十八年七月 內務省令第八號)

古物商取締法細則

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ做フ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任ス



ルコトヲ得但營業ヲ禁止又ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

**第二條** 左ノ營業者ニシテ臨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ  
吳服商 金物商 袋物商 小間物商 籠甲商 時計商 飾商 書籍商

其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

**第三條** 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノノ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ

**第四條** 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動、管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ  
後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ  
後見人ニ依リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區長戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

**第五條** 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但古物商取締法第四條第二項ニ依

リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交付セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

**第六條** 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

**第七條** 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

**第八條** 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ

家屬又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯セシムヘシ  
鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

**第九條** 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添へ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スベキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ



第十條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ 廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ糶賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其日時並場所ヲ行政廳ニ 届出ヘシ

第十二條 古物商露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨ リ古物品ヲ買取リ讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミ タル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十一條第十 二條及第十三條ニ違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノノ外警視總監、北海道廳長官及府縣 知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

### 質屋取締法

(明治二十八年三月 法律第十四號)

#### 質屋取締法

第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設 クルトキ亦同シ廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質 入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ 疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但 住所、氏名ノ詳カナル者ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタル トキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ 質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ  
一 利子割合  
一 流質期限  
一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方  
一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ 非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

古物商取締法



前項ノ物品ニシテ

警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施シテ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質物ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金

錢ヲ領收スルコトヲ得ス貸金貳拾五錢以下ハ一箇月壹錢、壹圓以下ハ

一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、拾圓以下ハ一箇月百分

ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限リ無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タツト元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物

ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タツトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ

返還スルコトヲ得

第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ

質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品又ハ遺失物又ハ傳染病汚染ノ

物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ

依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ

得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被

害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二

箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受

クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ

營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ



又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但沖繩縣ニ施行セス

第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

質屋取締法細則

(明治二十八年七月 內務省令第九號)

明治二十八年法律第十四號質屋取締法細則左ノ通り之ヲ定ム

質屋取締法細則 第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知

古物商取締法



事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動、管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日

以內ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明

シ行政廳ニ届出ヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ

支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額質物ノ種類員數番號年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得







第三條

商標專用ノ年限ハ二十年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

外國ノ登録商標ニシテ帝國ニ於テ登録ヲ受ケタルモノノ専用年限ハ原

第四條

登録ノ有效年限ニ從フ但シ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條

商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタ

第六條

登録商標主其ノ營業ヲ讓渡シ又ハ他人ト其ノ營業ヲ共ニスル場

合ニ限リ其ノ商標ヲ讓渡シ若ハ共有ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ

特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗ス

ルコトヲ得ス

登録商標シタル同商品ニ付キ類似ノ商標ヲ有スルトキハ共ニ讓渡若ク

ハ共有トナシ又ハ類似商標ノ使用ヲ廢止スルニ非サレハ前項ノ登録ヲ

受クルコトヲ得ス

第七條

商標ノ登録ヲ受ケントスル者ハ一商標毎ニ其ノ商標ヲ付スヘキ

第八條

商品ヲ明記シ見本ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

二人以上同一又ハ相類似スル商標ヲ同商品ニ使用セントシテ登

録ヲ出願スル者アルトキハ出願ノ先ナルモノヲ登録シ同時ニ出願シタ

ルモノハ共ニ之ヲ登録セス但シ出願者一人トナリタルトキハ此ノ限ニ

テラス

第九條

工業所有權保護同盟條約國ニ於テ商標登録ヲ出願シタル者四箇

月以内ニ同一商標ニ付登録ヲ出願スルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日

ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ効力ヲ有ス

第十條

登録ヲ受ケタル商標ニシテ第二條又ハ第八條ニ違反シタルモノ

ナルトキハ其ノ登録ヲ無効トス但シ第二條第四號若ハ第五號ニ該當シ

又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルモノニシテ登録後三年ヲ經タルトキ

ハ此ノ限ニアラス

第十一條

登録ヲ受ケタル商標ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキ

ハ特許局長ニ於テ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得

一 登録商標主登録後其ノ商標ヲ使用スル商品ノ產地、品質等ニ關

シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

二 登録商標主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十條ニ依ル特許

法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

三 商標専用權ハ登録商標主其ノ商標ヲ使用スル營業ノ廢止ニ因

リ

第十二條

商標法



第十三條 商標登錄ヲ受クル者ハ一商標ニ付商品一類毎ニ商標料金三十

第十四條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ商標登錄ニ關スル必要ノ事項ヲ公

第十五條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對

第十六條 他人ノ登錄商標ナルコトヲ知り其ノ承諾ヲ經スシテ之ト同

第十七條 詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケ

第十八條 第十六條及第十七條ノ場合ニ於テハ商標及商標ヲ表示スヘキ

第十九條 第十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一

第二十一條 第三條第二十八條乃至第三十七條第四十三條及第五十一條ノ規

定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

商標法

他人ノ登錄商標ヲ有スル容器、包裝等ナルコトヲ知り之ヲ同商品ニ使

用シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル

者又ハ他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、

看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十七條 詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケ

ル商標ニ登錄標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ

知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ十五日以上一年

以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス登錄ヲ受ケスシテ

登錄標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ付シタル商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告

看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ



第二十一條

主務官廳ニ於テ認可シタル同業者ノ組合ニシテ標章ヲ商標トシテ專用セシトスルトキハ此ノ法律ニ依リ登録ヲ受ケルコトヲ得

第二十二條

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條

明治二十一年勅令第八十六號商標條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

商標條例ニ依テ受ケタル商標ハ此ノ法律ニ依テ受ケタル商標ト同一ノ効アルモソトス

商標ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラ

第二十四條

明治二十一年勅令第八十六號商標條例第二條第三號ニ該當シ又ハ同第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタル商標ニシテ同第十條ニ依リ無効タルヘキモノニ對シテハ此ノ法律施行後二年ヲ經過スルトキハ其ノ登録無効ヲ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

實用新案法

(明治三十八年二月十五日) 法律第二十一號

第一章 總則

第一條

工業上ノ物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ考案ヲ爲シタル者又ハ之ヲ承繼シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

左ノ各號ニ該當セサルモノハ新規ナルモノト看做ス

一

登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公ニ用サレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二

登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ公刊物ヲ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第二條

左ニ掲クル實用新案ハ之ヲ登録セス

一

菊花御紋章又ハ之ニ類似スルモノ

二

秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條

實用新案ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サムトスル者又ハ實用新案權者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサル者ハ帝國内ニ住所ヲ有スル者ニ就テ代理人ヲ定メ特許局長ニ届出ツヘシ

實用新案法



前項代理人ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲スヘキ手續及實用新案ニ關スル民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノト

第四條 特許局長ハ實用新案ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第五條 特許代理業者ニ非サレハ實用新案ニ關スル代理ヲ常業トスルコトヲ得ス

第六條 實用新案ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定

ノ手續ヲ爲ササルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ出願又ハ請求ヲ無効ト爲スコトヲ得

第七條 本法ニ依リ特許局ニ於テ爲ス書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局

ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 實用新案ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 實用新案權

第九條 實用新案權ハ實用新案ノ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ製作、販賣、擴布又ハ使用

スル權利ヲ專有ス

第十條 實用新案權ノ存續期間ハ三箇年トス

前項ノ期間ハ三箇年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 實用新案權ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十二條 實用新案權存續期間ノ延長ハ特許局長ニ請求シテ登録ヲ受ケ

ルニ非サレハ其ノ効ヲ生セス

實用新案權ノ移轉又ハ質入ハ特許局長ニ請求シテ登録ヲ受クルニ非サ

レハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 無効ノ審判確定シタルトキハ特許局長ハ實用新案ノ登録ヲ取

消スヘシ此ノ場合ニ於テハ實用新案權ハ初メヨリ存立セサルモノト看

實用新案權者正當ノ事由ナクシテ六箇月以上第三條ノ手續ヲ怠リタルトキハ特許局長ハ實用新案ノ登録ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ實用新案權ハ以後効力ヲ失フ

第十四條 登録實用新案カ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特許發明ハ登録意匠又ハ登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト不能ナルトキハ其ノ發明特許權者ノ意匠權者又ハ實用新案權者ノ許諾ヲ得タル場合ニ實用新案法



限リ之ヲ實施スルコトヲ得  
特許發明又ハ登録意匠カ其ノ出願前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ使用  
スルニ非サレハ實施スルコト能ハサルトキハ實用新案權者ノ許諾ヲ得  
タル場合ニ限リ之ヲ實施スルコトヲ得

第十五條 實用新案權者ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ登録實用新案ノ實  
施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

實用新案實施ノ許諾ヲ得タル者ニシテ特許局長ニ請求シ其ノ登録ヲ受  
クルトキハ爾後其ノ實用新案權ヲ取得シタル者又ハ其ノ實用新案權ニ  
付質權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ効力ヲ生ス

第十六條 實用新案權者又ハ實用新案實施ノ許諾ヲ得タル者ハ其ノ登録  
實用新案ニ係ル物品ニ登録標記ヲ附スヘシ物品ノ性質ニ依リ之ニ標記  
ヲ附スルコト能ハサルトキハ其ノ包裝上ニ之ヲ附スヘシ

標記ヲ附スルコトヲ忘リタル爲登録實用新案品ナルコトヲ知ラスシテ  
其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 出願ノ審査及登録  
第十七條 實用新案ノ登録受ケム者ハ一實用新案ニ付一物品毎  
ニ願書ニ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ差出スヘシ

特許局長ハ必要ト認ムルトキハ出願人ニ解説書、圖面、見本又ハ雛形  
ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ニ出願ヲ爲シタル者ニ  
非サレハ登録ヲ受ケルノ權利ヲ有セス但シ同日ノ出願ニ係ルトキハ各  
出願者協議シテ權利者ヲ定ムヘシ協議調停サルモ其ノ之ヲ登録セ  
ス

第十九條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録受ケカラス  
トキハ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ヲ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日  
以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタル  
トキハ其ノ發明特許又ハ意匠登録ノ出願シタル日ニ於テ出願シタルモ  
外ト看做ス

第二十條 政府又ハ道府縣ノ開設シタル博覽會又ハ共進會ニ出品スル物  
品ニ付其ノ出品前豫メ之ヲ特許局長ニ届出テ博覽會又ハ共進會ニ於テ  
其ノ物品ヲ受領セヨリヨリ六箇月以内ニ其ノ實用新案ノ登録ヲ出願ス  
ルトキハ先ノ届出ノ日ニ於テ登録ヲ出願シタルモノト看做ス

工業所有權ニ付帝國並相互保護ニ關スル條約又ハ外國ニ於テ萬國博覽會  
ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル登録願保護ノ期間  
實用新案法



ハ帝國内ニ於テモ有效ナルニ試ミ出品ニ權ニ與ヘシハ特許局長ニ照會スルニ限リ

**第二十一條** 實用新案登録及出願ヲ關タル事務ハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ之ヲ審査セシムルモ其ノ出願ニ出願シタルモノハ其ノ出願ニ依リテ

**第二十二條** 特許局審査官ニ於テ査定以爲其ノ出願ニ出願シタルモノハ其ノ出願ニ依リテ特許局長ニ照會スルニ限リ

**第二十三條** 特許局審査官ハ第二條及第十八條ノ規定ニ該當スルモノハ否ニ付審査スヘシ但シ第一條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ

**第二十四條** 登録拒絶ノ査定ヲ爲シタルモノハ不服ナルモノハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ特許局長ニ再審査ヲ請求スルコトヲ得ル

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ前審査ニ關與セサル特許審査官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ

前條但書ニ依ル査定ニ對シ不服アル者再審査ヲ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ特許局審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スルコトヲ得ル

**第二十五條** 第三十八條及第三十九條ノ規定ニ該當スルモノハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録ヲ請求スルコトヲ得ル

前項ノ規定ニ該當スルモノハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録ヲ請求スルコトヲ得ル

シ登録證ヲ下付スヘシ

**第二十七條** 實用新案ノ登録ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登録料金十五圓ヲ納ムヘシ

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登録料金三十圓ヲ納ムヘシ

**第二十八條** 實用新案ニ關スル登録ハ實用新案原簿ニ之ヲ爲スヘシ

**第二十九條** 登録實用新案ニ關スル書類ノ謄本、登録證ノ複本、證明圖面ノ調製又ハ書製ノ閱覽ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ説明シ之ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

**第三十條** 特許局ハ實用新案公報ヲ發行スヘシ

實用新案公報ニハ登録實用新案ニ關スル重要ナル事項ヲ掲載スルコトヲ得

**第三十一條** 登録實用新案カ第一條第二條又ハ第十八條ノ規定ニ違フモノハナルコトヲ發見シタル者ハ特許局長ニ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

**第三十二條** 登録實用新案カ互ニ撞著スルモノハ否又ハ登録實用新案カ實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ト撞著スルモノハ否ニ付利害關係人ハ特許局長ニ撞著ノ審判ヲ請求スルコトヲ得



**第三十三條** 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スルコトヲ要ス

**第三十四條** 特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムルヘシ

特許局ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ指定シ請求人又ハ被請求人ヲシテ辯駁書又ハ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

**第三十五條** 審判ハ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依リ之ヲ行ヒ審判官中一人ヲ審判長トス

**第三十六條** 審判長ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第三十七條** 審判請求人又ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書又ハ辯駁書ヲ差出サス其他指定ノ手續ヲ爲サス又ハ口頭審理期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ直ニ審判ヲ終結スルコトヲ得

**第三十八條** 審判ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲シ且當事者ノ申立サル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

前項證據調ハ區裁判所又ハ臺灣地方院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

**第三十九條** 證據調ニ付テハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

**第四十條** 審判ニ關スル費用ノ負擔ハ終局審決ニ依リ之ヲ定ム費用ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法中訴訟費用ニ關スル規定ヲ準用ス

**第四十一條** 審決アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

**第四十二條** 終局審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルニ限り審決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

**第四十三條** 大審院ニ於テ出訴ヲ理由アリトスルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス



第四十四條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付實用新案權ニ關シ爭アル場合ニ於テ裁判所ハ第三十一條又ハ第三十二條ニ請求ニ依ル審決ヲ確定ニ至ル迄其ノ訴訟ヲ中止スルコトヲ得

第四十五條 審判及出訴ノ費用額ニ關シテハ民事訴訟費用法ヲ適用スルモ特許局長請求ニ依リ之ヲ決定ス

前項ノ決定ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作リタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第五章 罰則

第四十六條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ偽造シ又ハ偽造品ト模造品ヲ販賣シ擴布若ハ使用シタル者ハ十五日以上二年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者ハ罰前項ニ同シ

本條ノ犯罪ハ實用新案權者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十七條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ偽造品模造品輸入品之ヲ沒收シ實用新案權者ニ給付ス

第四十八條 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ヲ登録ヲ受ケタル者又ハ實用新

案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其ノ包裝上ニ實用新案登録ノ標記ヲ附シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告若クハ引札等ニ於テ實用新案登録品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十九條 證人、鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ對シテ詐偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐偽ノ陳述ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ヲ查定又ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ヲ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第五十條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正  
實用新案法



當ノ理由ヲクシテ呼出ニ應セズ又ハ其ノ義務ヲ盡サカバキハ四圓以  
上四十圓以下ノ罰金ニ處スル本件又ハ

第五十一條

本法ハ明治三十八年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條

左ノ場合ニ於テハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シタル  
日ヲ以テ第十四條及第十八條ノ適用上實用新案ノ登録出願ノ目ト看做  
ス

本法施行前一箇年以内ニ於テ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法  
施行前特許スヘカラス又ハ登録スヘカラストシテ査定ヲ受ケタル者  
本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新  
案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行前發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許  
スヘカラス又ハ登録スヘカラストシテ査定ヲ受ケタル者其ノ査定  
送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品  
ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新  
案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行前發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許  
スヘカラス又ハ登録スヘカラストシテ査定ヲ受ケタル者其ノ査定  
送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品  
ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新  
案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行前發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許  
スヘカラス又ハ登録スヘカラストシテ査定ヲ受ケタル者其ノ査定  
送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品  
ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新  
案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行前發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許  
スヘカラス又ハ登録スヘカラストシテ査定ヲ受ケタル者其ノ査定  
送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品  
ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新  
案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行前發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許  
スヘカラス又ハ登録スヘカラストシテ査定ヲ受ケタル者其ノ査定  
送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品  
ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新  
案ノ登録ヲ出願シタルトキ

第一條 實用新案ニ關シ出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ左ニ掲クル所ニ  
依リ手数料ヲ納付スヘシ

一 登録出願 每一件 金二圓

二 再審査請求 每一件 金三圓

三 審判請求 每一件 金十二圓

四 費用額決定ノ請求 每一件 金五十錢

五 費用額決定ノ執行力アル正本ノ請求 每一件 金五十錢

六 書類謄本ノ請求 謄本十三行二十五字詰一枚  
ニ付金十錢  
字數一枚ニ滿タ  
カハモノハ一枚トス  
歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢  
百語ニ滿タサルモノ亦同シ

七 登録證複本ノ請求 每一件 金一圓

八 證明ノ請求 每一件 金五十錢

九 圖書調製ノ請求 圖面一枚ニ付金三十錢以上

實用新案法

實用新案法

實用新案法

實用新案法

實用新案法



八 式  
 十 書類閲覧ノ請求  
 十一 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ

金三十圓以下ニ於テ調製ノ  
 難易ニ從ヒ特許局長ノ定メ  
 形金額

十一 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ  
 關スル届出

每一件ハ金十錢  
 每一件ハ金一圓

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルニシテ、  
 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 新聞紙
- 二 雜誌
- 三 書籍
- 四 寫眞
- 五 圖畫
- 六 地圖
- 七 算術
- 八 算盤
- 九 算盤
- 十 算盤

第一條 凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書  
 印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云フ其ノ文書ヲ著述シ又ハ  
 編纂シ若ハ圖畫ヲ作為スル者ヲ著作家ト云フ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ  
 發行者ト云フ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

# 出版法

(明治二十六年四月) 法律第十五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書

印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云フ其ノ文書ヲ著述シ又ハ  
 編纂シ若ハ圖畫ヲ作為スル者ヲ著作家ト云フ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ  
 發行者ト云フ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除ク外文書圖書ノ出版ハ總  
 テ此ノ法律ニ依ルヘシ但專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル  
 雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ  
 三日前ニ製本二部ヲ添へ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製  
 本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作家又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘ  
 シ但非賣品ハ著作家又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

出版法



版權ノ保護ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若ハ著作人又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スベシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シ若クハ天届出ヘシ

**第六條** 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作人又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

**第七條** 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ

**第八條** 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若クハ數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若クハ營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

**第九條** 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附、諸種ノ用紙、證書ノ類及寫真ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但第

十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルル者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

**第十條** 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

**第十一條** 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ニ再版出版届ヲ要セス但雖若改正増減シ又註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

**第十二條** 演說者ハ講義ノ筆記ヲ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作人トス但筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ハ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルキハ筆記者ヲ著作人ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルルキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同シク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ハ承諾ヲ



經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス  
 公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ズ但本項ニ違ス者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム  
 第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ  
 前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ  
 第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ  
 第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ  
 第十六條 犯罪ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス  
 第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ裁判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ズ  
 傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス  
 第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳

ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス  
 法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス  
 第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得  
 第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得  
 第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス  
 第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セズ其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス



**第二十五條** 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日又其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ヲ記載キス若クハ之ヲ記載ス後モ實ニ以テ之ヲ改メタル者ハ罰前項ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

**第二十六條** 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタル者ハ著作者、發行者、印刷者又二月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

**第二十七條** 風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者又十一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二十八條** 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ルル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者又十一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十九條** 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁ゼラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

**第二十九條** 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

**第三十條** 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分、他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルニシテ

**第三十一條** 文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認

ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若クハ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

**第三十二條** 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減刑、再犯加重ニ數罪俱發ノ例ヲ用フ

**第三十三條** 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

**第三十四條** 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項前二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ止ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレバ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

**第三十五條** 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セス、雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル



# 著作權法

## 第一章 著作權ノ權利

第一條 文書演述圖畫彫刻模型寫真其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ與行權ヲ包含ス

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作權ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作權ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作權者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ノ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作權者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物トナルコトヲ得ス

一 法律命令及官公文書

著作權法



三 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事

ノ記事  
三 公開セル裁判所ノ議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル  
權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作權者其ノ實名ヲ登錄ヲ受ケタルトキハ  
此ノ限ニ在ラス

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作權ハ各著作權者以テ共有ニ屬  
ス

各著作權者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作權者中ニ其ノ發  
行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作權者ハ其者ニ賠償シテ其ノ持分  
ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス各著作  
者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作權者中ニ其ノ發行又ハ興行  
ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作權者ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作權ト  
シテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在  
ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作權者ノ意ニ反シ  
テ其ノ氏名ヲ其ノ著作權ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條 數多ク著作權者ハ著作權ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作權者ト看做シ其ノ編  
輯物全部ニ付テハ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作權者ニ屬  
ス

第十五條 著作權者ハ著作權ヲ登錄ヲ受クルコトヲ得

發行又ハ興行シタル著作權者ハ著作權者ニ登錄ヲ受クルニ非サレハ偽作  
對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

著作權ノ讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者  
對抗スルコトヲ得

無名又ハ變名著作物ハ著作權者其ノ實名ヲ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

第十七條 登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 未ク發行又ハ興行セサル著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキ  
シ爲ニ差押ヲ受クルコトヲ得但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキ  
此ノ限ニ在ラス

第十九條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作權者ノ同意ナクシテ其ノ著作權者ノ  
氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作權者ヲ改竄スルコト  
ヲ得



第十九條 原著作物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ

其ノ他以テ修正増減ヲ爲シ若シ翻譯案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコト

ナシ但シ新著作物ト看做サルベキモノハ此ノ限ニ在ラス其ノ

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除ク

外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其出所ヲ明示シ

テ轉載スルコトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ス爲シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享

有ス

翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著作物

ヲ翻譯スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

第二十二條 原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複

製シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ト著作

權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルベキハ

其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作

物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシタルモノナルトモ其ノ著作權ハ文藝

學術ノ著作物ト著作權者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托

者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作タル

著作物ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサル

モノハ命令ニ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク

外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ

帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限り本法ノ保護ヲ享有

ス

第二章 偽作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノ

ノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償ス



ルノ責ニ任ス

第三十條

既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ偽作ト看做サス

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製

第二 自己ニ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ

第四 於テ拔萃蒐輯スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ

第六 文藝學術ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿

第七 入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著

第八 作物ヲ挿入スルコト

第九 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

第十 本條ノ場合於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條

帝國ニ於テ發賣頒布スル又目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者

第三十二條

練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作

第三十三條

善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之ヲ爲シ他

第三十四條

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ同

第三十五條

自己ノ持分ニ應シテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條

於テ其ノ著作物トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作

第三十七條

無名又ハ變名著作物ニ於テ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタ

第三十八條

未タ發行セザル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作トシテ

第三十九條

氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作トシテ推定ス

第四十條

著作權者ノ氏名ヲ顯ハサザルトシテ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作トシテ推定

第四十一條

著作權者ノ氏名ヲ顯ハサザルトシテ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作トシテ推定

第四十二條

著作權者ノ氏名ヲ顯ハサザルトシテ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作トシテ推定



**第三十六條** 偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所所屬原告又ハ告訴人又ハ申請人依リ保證人立テシテ又其立派シテ又シテ假令偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルニ得ル其ノ關シ其ノ興行ニ差押セシメ得ル事ニ關シ其ノ前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非アル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止メ又ハ差押セシメ生シタル損害ヲ賠償スルヲ責ニ任ス

**第三章 罰則**

**第三十七條** 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第三十八條** 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第三十九條** 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セズシテ複製シタル者並第廿三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第四十條** 著作者ニ非サル者ハ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第四十一條** 著作權ノ消滅シタル著作物ニ雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第四十二條** 虛偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第四十三條** 偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之ヲ沒收ス

**第四十四條** 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第四十五條** 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完

**第四章 附則**

**第四十六條** 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例

明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

**第四十七條** 本法施行前ニ著作權ヲ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ發賣保護ヲ享有ス



第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレザリシ複製物ニシテ既ニ複製シ  
 前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年  
 間仍其ノ複製ヲ爲セテ使用スルコトヲ得  
 第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯キ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト  
 認メラレザリシモノノ複製ノ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻  
 譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス  
 第五十條 本法施行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得  
 第五十一條 本法施行後五年間仍之ヲ興行シ其ノ當時ニ於テ偽作  
 ト認メラレザリシモノノ複製ノ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得  
 第五十二條 本法施行後五年間仍之ヲ興行シ其ノ當時ニ於テ偽作  
 ト認メラレザリシモノノ複製ノ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

明治四十年四月九日印刷  
 同 年四月十三日發行

\*\*\*\*\*  
 不許  
 複製  
 \*\*\*\*\*

編著者 東京法律研究會  
 發行者 井上尙一  
 大阪市南區安堂寺橋通四丁目  
 印刷者 日出版民助  
 大阪市北堀江上通一丁目

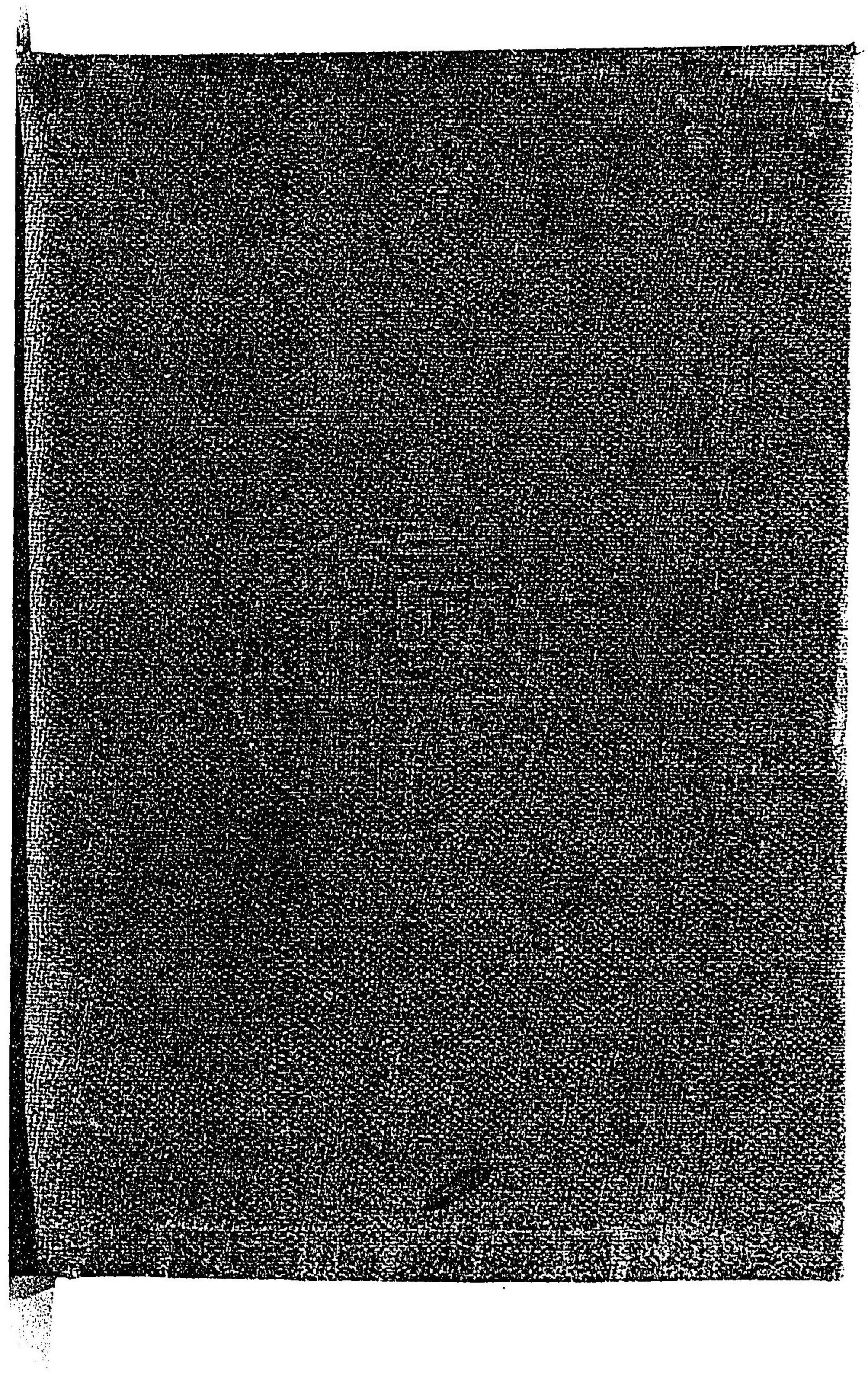
發行所 井上一書堂  
 大阪市南區佐野屋橋安堂寺橋通南入



253

444







禁電子式複写



030845-000-6

CZ-5-0158

改正帝国法律全書

東京法律研究会／編

M40

BBC-0030

